



実際に農泊事業を行っている民家の外観

まづくり元氣塾では、農泊事業に取り組みたいという方が、住民の意見を聞き、火をつけたと話すのは、ふじさと元氣塾理事長の藤原弘章さん。この視察によって、自分たちが農泊を営むイメージが明確になり、一気に開業まで実現した。農泊を営む住民からは「一晩の言葉がもたらすことが、これほど多い」と最近の仕事でも、慣れ、工夫や改善案を自分で考えているなど、前向きな感想が聞かれています。

このほかにも、地元で採れた食材を使った、農家レストランの開業準備も進む。既に場所も確保し、保健所の許可も取得。地区の主婦たちの手で、地元野菜や山菜キノコ、川魚を使用したメニューの開発も着々と進んでいる。残る課題の運営する人員や提供メニューについて、ふじさと元氣塾で得られた成果を次の世代へ、ふじさと元氣塾の歩みは止まらな

まづくり元氣塾での活動を経て、粕毛地区では地域活性化に向けた取り組みが次々と実を結んでいる。まず実現したのは広報紙「粕毛まづくり」の発行。地元住民や粕毛地区を離れた地元出身者を対象に、地区の身近な話題などを知らせる。17年2月に第1号が発行されており、今後も発行が予定されている。

農泊事業では、地区内の6軒が農家民宿を開業。17年8月からの受け入れ数は既に100人超と予想20人を大幅に上回り、好評なスタートを切っている。「若手県道野市

6軒が農泊事業を開始

で農泊事業に取り組みたいという方が、住民の意見を聞き、火をつけたと話すのは、ふじさと元氣塾理事長の藤原弘章さん。この視察によって、自分たちが農泊を営むイメージが明確になり、一気に開業まで実現した。農泊を営む住民からは「一晩の言葉がもたらすことが、これほど多い」と最近の仕事でも、慣れ、工夫や改善案を自分で考えているなど、前向きな感想が聞かれています。



宿泊客を迎える農家民家の玄関



チーフパートナー

まづくり 菊池 新一氏

認定NPO法人
遠野山・里・暮らしネットワーク会長

ふじさと元氣塾が取り組んでいたのは、高齢者宅の除雪支援や買い物支援といった共助の活動を軌道に乗せることなど、雪国の過疎の集落ではどこでも抱えている問題についてどのように解決して地域の活性化に結びつけるかという点でした。

まづくり元氣塾では、以前から藤里町での交流活動に関わっている「ARC(アーク)」という地域活性化に取り組む多くのARCの学生グループとうまく連携することが、課題を解決する「カギ」になると考えました。

まずは、「地域の魅力」をそこで暮らす住民自らが認識するために「地域のお宝マップ」づくりを行い、この活動に多くのARCの学生が積極的に関わりましたが、その効果は計り知れないものでした。結果として、このお宝マップをきっかけに住民の関心が高まり、様々な活動が活発に行われるようになりました。そして、当初はやや消極的だと思われていた女性たちの活動への参加が目覚しく、あっという間に6軒の農家民宿が誕生し、17年8月の開業からすでに120人を超える宿泊客を受け入れる状況になりました。さらに農家レストランを開業することも決まり準備を進めるなど活動の流れは止まっています。

ARCにとっても、継続的に活動に参加しながら、メンバーの学生たち自身が成長する機会となっており、彼らがこうした活動に関わることはたいへん意義深いことです。

このように、地域には少しのきっかけがあれば動き出す「活力」「人材」が潜在しており、そのチャンスをつくるまづくり元氣塾の役割は大きいと考えます。



特定非営利活動法人
ふじさと元氣塾理事長

藤原 弘章さん

私たちふじさと元氣塾では以前から地域の活性化を目指し、大学生と協力しながら様々な活動に取り組んでいました。その活動をさらに加速させようと応募したのがまづくり元氣塾。農泊事業の実現や粕毛だよりの発行など多くの成果が生まれ、地域が確かに変わり始めています。

まづくり元氣塾の活動の中で一番うれしかったのは「お宝マップ」の作成を通じて、地域の魅力を再発見できたこと。まづくりパートナーの方から助言を頂いた。名所や食べ物だけでなく、人材を見付けるといった視点を生かし作成したお宝マップが様々な成果に結び付きました。このほかにも、「ここ」にあるものを使って、「ここ」にいる人たちが、「ここ」の土地でやるのが何より大切」という考え方に感銘を受けました。

住民の方々にも変化が生まれており、地域活性化の取り組みに対して「自分たちがやるんだ」という思いが共通するようになりました。特に女性の方々の頑張りが行動力を見えるものがあります。同時に、行政からの理解や応援も広がってきました。

まづくり元氣塾で得られた様々なノウハウを生かして、この動きを粕毛地区だけでなく隣町に全体に波及させていけるよう、今後の活動に取り組んでいきたいと考えています。